

東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究

造船技術の地域的特徴を把握

——沖縄共同調査と中国予備調査——

研究代表者 昆 政明

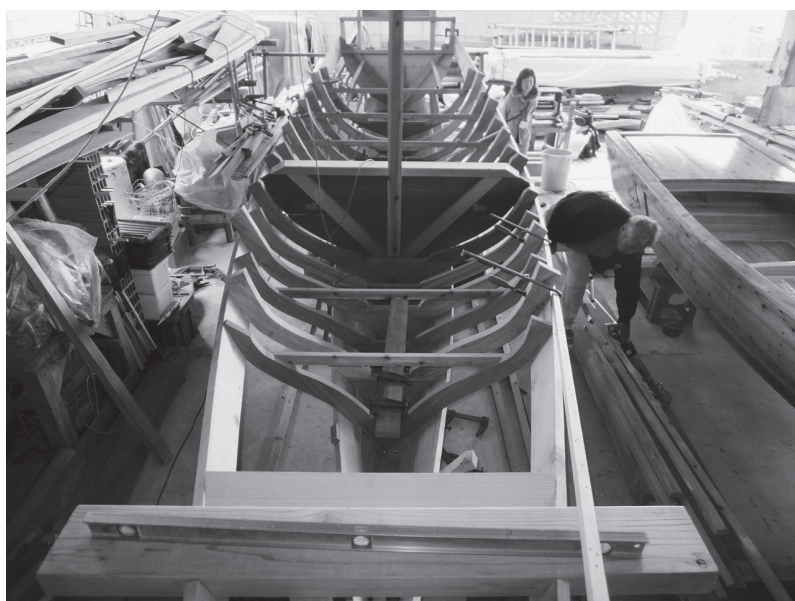


写真1 沖縄県うるま市越來造船で建造中のマラー船

この研究は各地域において伝統的木造船に関する調査研究を進めてきた研究者が共同し、日本と中国を中心とする東アジアの伝統的木造船の建造および操船技術の比較研究を行うものである。研究地域は国内においては鉄釘使用以前の船材接合法が残る北陸および沖縄を中心とし、沖縄の木造船建造技術と関連の深い中国福建省の福州、泉州および、現在でも伝統的木造船建造が盛んに行われている浙江省舟山群島の現地調査を行う

予定である。また、韓国、台湾についても今後の研究の進展に応じた取り組みが必要となると考えている。

本年度の沖縄共同調査では、沖縄在住と本土在住の研究者の共同調査として実施し、特に船材の接合における木製楔のあり方についていくつかの知見が得られた。具体的には沖縄ではフンドゥ、本州の日本海沿岸でチキリ（リュウゴ）の共通性と使用方法の相違点に注目した。一例を挙げれば、チキリの場合は船材の中にタタラと呼ばれる平らな木製部材を挿入するのに対し、沖縄のフンドゥでは入れない。また、鉄釘に対し竹釘が使用され、それを挿入する穴開け用具は中国で用いられる用具と近似しているなど、今後の調査における留意点を確認できた。

中国予備調査では沖縄と関連が深い福建省の福州市と泉州市および浙江省舟山市を調査地に選定した。浙江省福州市近郊の漁村では多くの伝統的小型木造漁船が稼働しており、これらの修繕や新造を行う造船所を確認し、調査への協力を得ることができた。船大工道具、石膏と麻、桐油等で練り合わせたもので船材の隙間を埋める充填材の製造場所などが整っており、造船工程と共に造船施設の調査を行うことができる。泉州市には泉州海外交通史博物館があり、同博物館では状態の良い小型木造船が展示されている。同館名誉館長王連茂先生の全面的協力を得られることから、同館展示資料の実測調査が可能である。泉州市郊外において船大工の経験を活かし木造船の模型を制作し



写真2 福州市近郊の木造漁船



写真3 泉州海外交通史博物館の伝統的木造漁船



写真4 舟山市普陀岑氏木船作坊で建造中の木造船

ている張国輝氏の工房では、伝統的木造船の構造建造工程等の調査が可能である。浙江省の舟山群島舟山市には現在も木造船を盛んに建造している造船所「普陀岑氏木船作坊」があり、社長の岑国和氏は中国の伝統的造船技術保持者として国の認定を受けている。ここでは多くの木造船を連続して建造しており、各建造段階の船体を同時に調査することができる。以上の予備調査の知見をもとに、現地の博物館、大学、研究者の協力を得て次年度以降の調査を進めていきたい。